

ゴッホ展

巡りゆく日本の夢

この土地が、空気の透明さと
明るい色彩効果のために
僕には日本のように美しく見える

……(ファン・ゴッホ書簡 587/62)

19世紀後半に活躍し、
今もなお世界中で絶大な人気を誇る画家、
フィンセント・ファン・ゴッホ (1853-1890)。
彼が新たな表現形式を模索するなかで、浮世絵や
日本に関する文献資料が重要な役割を果たしました。
〔日本〕に芸術的、社会的、宗教的理想を見出したファン・
ゴッホは、単なる模倣にとどまらず、理想郷としての日本を
夢みて南仏アルルへ赴きます。日本をめぐるとの夢は、ゴーガンとの
共同生活が破綻した後も、最期まで覚めることはありませんでした。
一方で1920年代には日本の芸術家や知識人がファン・ゴッホに憧れ、その墓のあるフランスの
オーヴェールシュル・オワーズを巡礼し、日本でのファン・ゴッホ受容に貢献したのです。
ファン・ゴッホ美術館との共同企画である本展は、世界中の名だたる美術館から集められた
ファン・ゴッホの油彩画やデッサン約40点に加え、関連する浮世絵版画やオーヴェール巡礼に関する
豊富な資料などを通じて、ファン・ゴッホと日本との相互関係を探り、その新たな魅力を紹介します。
ファン・ゴッホ作品に隠された〔日本〕を発見する、またとない機会となることでしょう。

2018年
1月20日(土)
— 3月4日(日) 休館日：月曜日(ただし2月12日を除く)、2月13日(火)
※金土曜日は午後8時まで(入館は閉館の30分前まで)
開催時間：午前9時30分～午後5時
主催：京都国立近代美術館、NHK京都放送局、NHKフラネット近畿、京都新聞
協賛：NHK日本興業、タキイ種苗
協賛：NHK日本興業、タキイ種苗
共同企画：ファン・ゴッホ美術館
後援：外務省、オランダ王国大使館、共同企画：ファン・ゴッホ美術館
協力：KLMオランダ航空、日本航空

ほんとうに
日本の夢
のようだよ!

アイリスはファン・ゴッホが
好んで描いたモチーフで、
日本の燕子花を連想させます。
高い水平線位置は
浮世絵から学んだ構図。
この風景画について
「まるで日本の夢のようだ」
と手紙に記しています。
理想郷「日本」としてのアルルで
制作することの希望と
歎びに満ちあふれた一作。

●アイリスの咲くアルル風景 1888年
ファン・ゴッホ美術館
フィンセント・ファン・ゴッホ財団蔵

Van Gogh & Japan

The National Museum of Modern Art, Kyoto Jan.20-Mar.4, 2018

